

## 【特集】東日本大震災と天使大学

### 「東日本大震災支援プロジェクト」の発足について

「東日本大震災支援プロジェクト」リーダー  
大学院助産研究科 教授 高橋 弘子

2011年3月11日(金)の東日本大震災から1年が経ちましたが、大震災後も続いた地震や原発による放射能汚染等、被害の大きさを知るにつれ、長く続く復興の道程において何ができるかを考えさせられます。

本学では、1年前の3月15日(火)の卒業式と4月4日(月)の入学式に学生会「葦の会」の学生たちが募金活動を行いました。その後、大学院助産研究科の学生や教員のボランティアが個人的な立場で現地支援に参加しました。5月、丸山知子学長から教職員へ、大学としての復興支援への取り組みについて調査があり、その結果をもとに学長直轄プロジェクトとして「東日本大震災支援プロジェクト」が立ち上がりました。

プロジェクトはリーダー高橋弘子教授(助産研究科)、メンバーの目時光紀講師(教養教育科)、鹿内あずさ講師(看護学科)、百々瀬いづみ講師(栄養学科)、高山美香さん(総務課)、大倉垂矢子さん(学務課)の6名が中心となって活動を開始しました。プロジェクトの目的は「大震災に対して、本学の理念の一環として被災者への支援を行うこと」です。プロジェクトの主な役割は、大震災支援に関する体制づくりと情報の集約および発信、支援の企画と運営ということで、募金・物資支援、震災とボランティアに関する情報収集や教育活動、学生の被災地へのボランティア参加のための準備、カトリック教会との連携等、活動を始めました。

特に、学生が震災ボランティアに参加するための安全性に



メッセージボードを作成する学生たち

手段・宿泊場所などの情報収集、交通費・保険などの経費・緊急時の連絡方法などを具体的に検討し、ボランティアマニュアルの作成、説明会開催など、ボ

ランティア活動が  
実り多い学習の  
体験になるよう  
にとの願いを持  
って取り組みま  
した。

講演会・説明会  
の開催は、全学  
共通の時間割を  
組む困難があり



支援物資を受け取る被災地の皆さん

参加者数に一喜一憂しました。しかし、時をおき、実際にボランティアに行ってきた学生の報告会では、学科・学年の違う報告者の熱い思いの吐露が参加者に確実に伝わっていくのが感じられます。また、被災地でのボランティアだけでなく、後方における取り組みの重要性についても認識が深まってきたように思います。クリスマスにはボランティア受け入れ先のカトリック宮古教会(岩手県宮古市)へ「忘れていません」の心を込めて、メッセージボードを作成・発送しました。現地で「カフェ活動」(傾聴ボランティア)をしてきた学生からの情報で、冬物の下着を希望のサイズで送ることもできました。現地の人を身近に感じ、気負わずに手がだせるようになったという感があります。講演会の講師からのヒントで始まった、被災地で活用できるレシピブックの作成は、看護栄養学部看護学科・栄養学科の学生有志とともに取り組み、完成間近です。春には現地で仮設住宅の人たちと一緒に作り、食べ、意見をもらってきたいというプランを膨らませています。

今後は、今年度の活動を基盤に、被災地の状況の変化に合わせてながら、息の長い活動に発展させたいと思います。このプロジェクト活動は、学生と教職員が一丸となって被災地の方々を応援したいというボランティア精神によって支えられて続けられています。活動をお互いが知り合い、協働することで新たな地平へと進んでいくことができると感じます。今後とも一緒に活動を続けましょう。